

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 萩ヶ丘 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

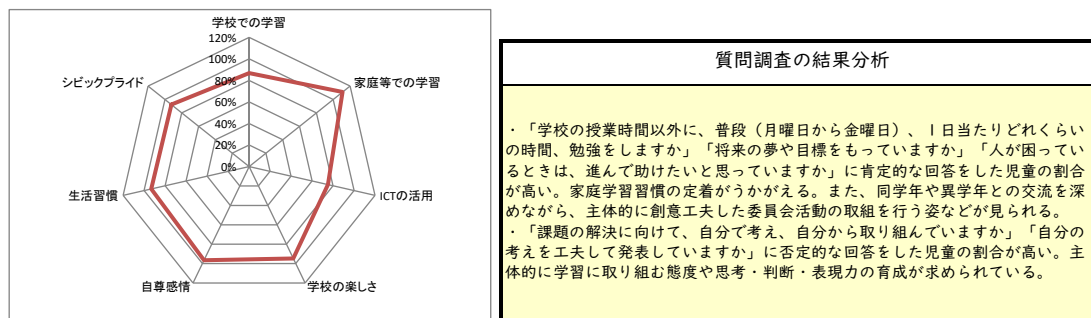
- (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

- (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	○文章を読んで、自分の感想や意見をもち伝えることができている。 ○目的や意図に応じて必要な情報を見つけたり、情報と情報との関係を理解したりすることに課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	○学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	○目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる問題	
算数	全体的な傾向や特徴など	○計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて説明することに課題がある。 ○基礎・基本の確実な定着にやや課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	○直方体の見取り図について理解し、かくことができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	○簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理することができるかどうかをみる問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

全職員で「スクールプラン」「主題研究」の取組内容について共通理解をし、「書く活動（ノート指導）」「GIGA 端末の効果的な活用」「話し合い活動」「課題意識をもたせるための教材研究」の重点化を図る。

① ノート指導において「めあて・自分の考え・まとめ・振り返りがあるノートづくり」を行う。さらに、考えの根拠を明確にして他の人に説明できるようにする。

② 計画的な情報教育研修を実施するとともに、折に触れて活用の仕方について情報交換を行う。また、ICTの活用について校内で再調査したところ、全国平均と同等の結果が得られた。今後も活用を継続する。

③ 主題研究や職員用スクールプランセルフチェックシートの活用を通し、授業力向上の自己研鑽に努める。

④ 基礎・基本的な学習内容を確実に定着させるために、形成的評価の充実と管理職を含め教科担任制のよさを生かしたサポート体制の充実に努める。

⑤ 人の話を聞いたり、文章を読んだりした後、その要点や感想をまとめさせたり、視点を明確にした振り返りを記述させたりしていく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

「萩ヶ丘小家庭学習の手引き」やスタディウィークの取組、学校通信やホームページの活用などを通して保護者との連携を図りながら、「家庭学習習慣の定着」から「内容の充実」への転換を図る。そのため、課題意識をもたせた授業づくりを推進・継続していく。

スマートフォン・タブレット端末等の使用時間が長いので、情報モラルに関する学習を計画的かつ必要に応じて行ったり、児童の実態を基に積極的な生徒指導に努めたり、各家庭でのルール設定を啓発したりしていく。

基本的な生活習慣（早寝、早起き、朝ごはん）を大切にすることができるよう、栄養教諭（食育）や養護教諭（健康・安全教育）の視点からも児童への指導や保護者への啓発に努める。